

金融市場の
新しい展開に向けて、
UBSウォーバーグは
前進を続けます。

急速な変化を続ける金融市場において、
私たちは既に、Eコマースへの取組み等、
新たな挑戦を積極的に展開しております。
今後も、UBSウォーバーグ証券会社は、
個々のお客様のニーズに対応する革
新的かつ高度なサービスと、卓越した
パートナーシップを提供して参ります。

UBSウォーバーグ証券会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目5番1号

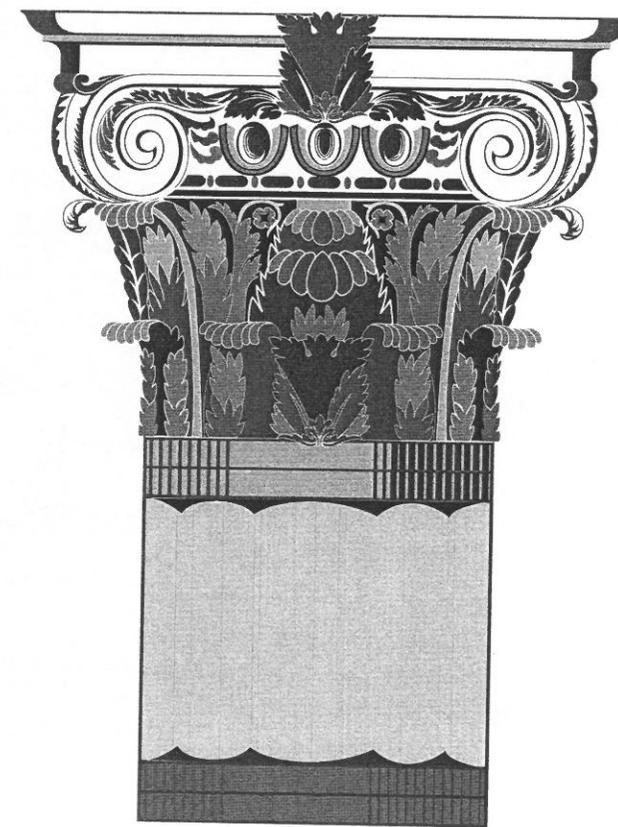
大手町ファーストスクエア イーストタワー

Tel: 03-5208-6000 Fax: 03-5208-6966

<http://www.ubswarburg.co.jp>

東京ニューシティ管弦楽団
第17回定期演奏会

ピエトロ・バッロ
Pietro Ballo



2000年6月22日(木) 19:00開演
東京芸術劇場大ホール

主 催：東京ニューシティ管弦楽団／ザックコーポレーション
特別協賛： UBS Warburg

Program

プログラム

<第1部>

ベルリオーズ：序曲「ローマの謝肉祭」作品9
H. Berlioz: Overture Le carnaval romain Op. 9

デ・クルティス：忘れな草
De Curtis: Non ti scordar di me

ビクシオ：お母さん
C.A. Bixio: Mamma

レオンカバルロ：歌劇「道化師」より間奏曲
R. Leoncavallo: Intermezzo from I pagliacci

レオンカバルロ：朝の歌
R. Leoncavallo: Mattinata

デ・クルティス：帰れソレントへ
De Curtis: Torna a Surriento

ヴォルフ=フェラーリ：歌劇「マドンナの宝石」より間奏曲
E. Wolf-Ferrari: Intermezzo from I gioielli della Madonna

トスティ：マレキアーレ
F. Tosti: Marechiaro

カプア：口づけを許したまえ
E. Capua: Ite vurria vasà

<第2部>

チレア：歌劇「アルルの女」より“フェデリコの嘆き”
F. Cilèa: Lamento di Federico from L'Arlesiana

フロトー：歌劇「マルタ」より“うるわしい君の姿はまぶたを去らない”
F. Flotow: Mappari, tutt' amor from Martha

マスネ：歌劇「ウェルテル」より前奏曲
J. Massenet: Prelude from Werther

マスネ：歌劇「ウェルテル」より“春風よ、なぜ私を目覚めさすのか”
J. Massenet: Pourquoi me Réveiller, Ô souffle du printemps from Werther

ドニゼッティ：歌劇「愛の妙薬」より“人知れぬ涙”
G. Donizetti: Una furtiva lagrima from L'elisir d'amore

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より前奏曲
G. Verdi: Prelude from Rigoletto

ヴェルディ：歌劇「リゴレット」より“女心の歌”
G. Verdi: La donna e mobile from Rigoletto

チレア 歌劇「アルルの女」より“フェデリコの嘆き”
ドーデの戯曲を基にマレンコのイタリア語台本にチレアが1897年に作曲した4幕の歌劇。翌1898年に3幕に改定された。

プロヴァンス地方の農家の息子フェデリコはアルルで出会った美女に恋する。だが彼女が馬方の情婦なので母親ローザはヴィヴィエッタと結婚させようとする。アルルの女を諦めきれないフェデリコはヴィヴィエッタとの結婚式の前に投身自殺してしまう。これは第2幕でフェデリコの切々とした気持ちが歌われる有名なアリア。

フロトー 歌劇「マルタ」より“夢のように”

別名「リッチモンドの市場」で知られる歌劇。リーゼの台本に1847年に作曲、同年ウィーンで初演された4幕の歌劇。18世紀初頭のイギリスを舞台にマルタと名乗るハリエット、彼女に仕えるナンシー、ハリエットの従兄トリストラン卿、裕福な農家の主人ブランケット、その義弟ライオネルの5人が繰り広げる恋愛物語。最後はハリエットはライオネルと、ナンシーはブランケットと結ばれる。“夢のように”は第3幕で歌われるテノールの名アリア。なお、この歌劇の中でアイルランド民謡「庭の千草」が使われていることを忘れてはならない。

マスネ 歌劇「ウェルテル」より前奏曲

ゲーテの「若きウェルテルの悩み」を基に、フロー、ミリエ、アルトマン3人の共作の台本にマスネが1886年に作曲した4幕の歌劇。1892年ウィーンでドイツ語による初演、93年オペラ・コミック座でフランス語によって初演された。

1780年代のフランクフルト近郊が舞台。多感な青年詩人ウェルテルはシャルロットに思いをよせている。しかし彼女には既に許婚アリベールがいるので苦悩の末ウェルテルはついにピストル自殺に、シャルロットの腕の中で息たえる、という悲劇。美しい旋律が全面にあふれるマスネの代表的な歌劇。

前奏曲は、わずか56小節の短い音楽。これから始まる悲劇とリリカルな雰囲気予告している。

“春風よ、なぜ私を目ざますのか”

ウェルテルが恋するシャルロットにクリスマス・イヴにオシアンにその思いを託して歌うアリア。オシアンは3世紀頃のケルト族の伝説に出てくる英雄で、アイルランド、スコットランドに住み吟唱詩人として多くの詩を作ったといわれる。ウェルテルが引用するのはその一篇で4分の4拍子、ハーブの分散和音に彩られて歌われる。

ドニゼッティ 歌劇「愛の妙薬」より“人知れぬ涙”

ドニゼッティのオペラ・ブッフアの代表作。ロマーニの台本に1832年に作曲し、同年に初演した。村一番の美女アディーナを愛する若者ネモリーノは彼女の冷たい態度を変えるために愛の妙薬を手に入れようとする。いんちき薬売りドゥルカマーレにだまされ薬を飲むが効き目はない。そこへやって来た軍曹ベリコーレマで彼女に一目惚れし、結婚の契約を交わす。だが結局アディーナはネモリーノの真心にうたれ、彼と結婚する。これは第2幕で歌われるセレナードふうのロマンス。

ヴェルディ 歌劇「リゴレット」より 前奏曲

イタリア・オペラの代表的作曲家ヴェルディが1850年から51年にかけて作曲した第16番目の歌劇。ユーゴの戯曲「逸楽の王」を基にピアヴェが台本を書いた。宮廷のおかかえ道化師リゴレットは、その主人マントヴァ公爵にひとり娘のジルダを陵辱され、殺し屋スパラフチーレを雇って復讐を果たそうとする。ところが刺客の妹マッドレーナも公爵に口説き落とされ、ジルダがその身代わりになって殺されてしまう、という悲劇。旋律の美しさ、劇的な迫力に富んだヴェルディ中期の傑作。

前奏曲はトランペットとトロンボーンに導かれ暗いこの歌劇の内容を暗示するような4分の4拍子のアンダンテ・ソステヌートの曲。

“女心の歌”

数あるオペラ・アリアの中で最も有名な曲の一つ。第3幕でマントヴァ公爵が自分の浮気心を、風の中の羽のように女の心は変わりやすい、と口ずさむカンツォーネ。



東京ニューシティ管弦楽団

音楽監督・常任指揮者
 アドミニストレイティブディレクター
 コンサートマスター
 インスペクター
 ライブラリアン
 事務局

内藤 彰
 渡部 中子
 藤田 めぐみ
 金岡 秀典、山川 奈緒子
 上村 雅英
 渡辺 晶子、鈴木 光子、青木 勝弘、石澤 仁志、折笠 桃子

Violins ●

◎藤田 めぐみ
 ○上原 まさみ
 荒巻 泉
 犬飼 素子
 小澤 郁子
 栗原 りか
 鈴木 順子
 鈴木 わらび
 高階 久美子
 綱木 郁
 徳井 えま
 富山 ゆりえ
 中川 さと子
 樋口 美佐子
 宮林 陽子
 山江 洋子
 山川 奈緒子
 山本 佳子
 吉井 孝子

Violas ●

○桜井 多美子
 安達 いづみ
 久郷 寿実子
 高瀬 有美
 竹鼻 江美子
 松田 美奈子

Violoncellos ●

○斎藤 草一
 青嶋 直樹
 大島 純
 鈴木 和生
 谷口 節夫
 山幡 正光

Doublebasses ●

○徳高 宏行
 青山 幸成
 江上 靖
 長竿 由紀子

Flutes ●

井ノ上 洋
 内山 豊美

Oboes ●

徳田 振作
 齋藤 潔

Clarinets ●

西尾 郁子
 小山 裕子

Bassoons ●

藤田 旬
 齋藤 美和子

Horns ●

小川 正毅
 松浦 光男
 下田 太郎
 上村 雅英

Trumpets ●

染谷 始
 元井 勤
 大貫 誉

Trombones ●

竹田 俊幸
 福井 実織
 榊原 徹

Tuba ●

松下 晃一

Timpani ●

藤城 佳之

Percussion ●

平子 久江
 尾花 章子
 佐伯 正彦

Stage manager ●

金岡 秀典



東京ニューシティ管弦楽団 2000年度定期演奏会

◆第18回定期演奏会 北とびあシリーズ◆

9月24日(日) 2:30pm 北とびあ さくらホール

●指揮：内藤 彰 ●合唱：東京合唱協会
 ドヴォルザーク 序曲「謝肉祭」作品92
 ドヴォルザーク スターバト・マーテル
 〈S席¥6,000 A席¥4,500 B席¥3,000〉

◆第19回定期演奏会◆

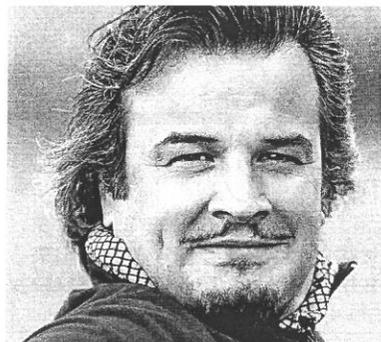
10月27日(日) 7:00pm 東京オペラシティコンサートホール

●指揮：内藤 彰 ●ピアノ：フィリップ・ジュジュアーノ
 (95年ショパン国際ピアノコンクール最高位)
 ブラームス 悲劇的序曲 作品81
 ショパン ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 作品11
 メンデルスゾーン 交響曲第4番イ長調「イタリア」作品90
 〈S席¥6,000 A席¥4,500 B席¥3,000〉

【お問い合わせ】東京ニューシティ管弦楽団事務局 TEL 03-5952-7617 FAX 03-5952-7618

ホームページ <http://www2.plala.or.jp/newcity/>

Pietro Ballo, tenor ピエトロ・バッロ/テノール



現在パヴァロッティの後継者、ポスト・三大テノールとしてイタリアをはじめ欧米各国で最も注目されているテノールである。イタリア・パレルモ(シチリア)生まれ。シチリアで音楽の勉強を始め、その後ミラノ・スカラ座の研究所で研鑽をつむ。イタリア国内外の数多くのコンクールで入賞を果たし、その後スカラ座、ナポリ・サン・カルロ歌劇場、ローマ・オペラ座、フィレンツェ歌劇場、バーリ歌劇場、パレルモ・マッシモ歌劇場、ヴェネツィア・フェニーチェ座、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ劇場、パルマ王立劇場、ベルガモ・ドニゼッティ歌劇場など、イタリア国内の主要劇場はもちろんのこと、パリ、ウィーン、バルセロナ、ロンドン、アムステルダム、ブダペスト、フランクフルト、トゥールーズ、東京など、各国の劇場にも数多く出演。ニューヨークのメトロポリタン歌劇場では、パヴァロッティとの共演で大成功を収め、続いてヴェネツィア・フェニーチェ座での「ラ・ファヴォリータ」での成功で、一躍その名をオペラ界に知らしめた。

幅広いレパートリーで、ムーティ、ガヴァツェーニ、シャイー、プレートル、メータ、アップバード、グアダーニョ、シノーポリら、著名な指揮者とともに舞台上に立っている。受賞も数多く、これまでにチレーア・ドーロ賞(1990年)、ジャコモ・ラウリ=ヴォルピ賞(1991年)、エンリコ・カルーソ賞(1992年)、ベニアミーノ・ジージ金賞(1990年)等を受賞している。オペラのみならずコンサート活動にも積極的で、特筆

すべきものとしては1986年、ロッシェニ「スターバト・マーテル」をパリ・サンジェルマン教会で、1989年にはオルヴィエートにおいてフェッロの指揮により、また1991年には同作品でフィレンツェ五月音楽祭のオープニングを飾り、1993年のジェルメッティの指揮による「荘厳ミサ曲」があげられる。そのほか、彼の主催するアンサンブル「アンサンブル・フェニーチェ」とのコンサートもイタリア国内外で行っている。日本では1995年、藤原歌劇団の「椿姫」「愛の妙薬」に出演。また1997年、ニコラ・マルティヌッチ、トレイシー・ウェルボーンとともにテノール・ガラに出演し好評を博した。1999年12月、東京オペラシティにて初のリサイタルを行う。2000年6月、新国立劇場「リゴレット」にマントヴァ公爵役で出演。

指揮：内藤彰(ないとう あきら)



名古屋大学理学部卒業。在学中より指揮を山田一雄氏に師事する。桐朋学園大学研究科(指揮専攻)にて、小澤征爾氏、秋山和慶氏、尾高忠明氏他に師事し、修了後、(社)山形交響楽団の専属指揮者を3年間務める。これまでに新日フィル、東フィル、東響、新日響、シティフィル、九響、名フィル他、日本の多くの主要オーケストラを指揮してきた。シンフォニーはもちろんな、オペラ、バレエの分野でも、その音楽性とテクニックは聴衆の心からの共感と、共演者の絶大な信頼を得ている。海外では、1991年旧ユーゴスラヴィアを代表するベオグラードフィルハーモニーを指揮し好評を博した。また1992年にはモスクワ音楽院大ホールにてモスクワ交響楽団を指揮し、最初のステージから満員の聴衆の5度のカーテンコールを受け、多くの楽員たちからもロシア音楽の魂を日本人から教えられたと絶賛された。1996年5月にはロシアの国立ヴァロニシユ歌劇場にて「セビリアの理髪師」を指揮し、絶大な称賛を受けた。1997年5月には、ベラルーシ国立歌劇場にて「蝶々夫人」を指揮し、その成功により今後とも同劇場から定期的な客

演が要請されている。現在、東京ニューシティ管弦楽団、及び、プロ混声合唱団「東京合唱協会」音楽監督、常任指揮者。日本指揮者協会幹事。

管弦楽：東京ニューシティ管弦楽団



東京ニューシティ管弦楽団は、1990年音楽監督、常任指揮者に内藤彰を擁し、設立された。定期演奏会の他、名曲コンサート、協奏曲、オペラ、バレエの伴奏、レコーディングなど幅広く活躍。特にオペラの分野では評価が高く、二期会、藤原歌劇団の他、レナータ・スコット、アルフレード・クラウス、ヘルマン・プライ、カーティア・リッチャレリ、マリエラ・デビアー、マリア・キアラ、渡辺葉子等世界で活躍するオペラ歌手との共演も多く、聴衆や批評家のみならず、世界の一流オーケストラと共演している彼らからも絶賛の言葉を贈られた。バレエでは、国内のバレエ団の他、英国バーミンガムロイヤルバレエ団、ロシア国立レニングラードバレエ団等海外からのバレエ団の日本公演でも高い評価を得ており、今後も内外のバレエ団の公演が目白押しである。また、桂三枝、三枝成彰、ケント・ギルバート、マリ・クリスティヌ等を迎えてのファ

ミリーコンサートも大変評判が良く、多くの方から親しまれている。メンバー個人個人の實力はもちろんな、それぞれの温かい人間性も共演の指揮者、ソリストから大変高く評価されており、また、一切の無駄を省いた新しいオーケストラの運営方針もユニークな発展を見せており、近年その活動が各方面から注目されている。2000年度より定期演奏会を年間5回に増やし、東京第10番目のオーケストラとして今後の活躍がますます期待されている。